安楽島子ども会「安楽島キッズ探検隊」

ぼうさい探検隊マップコンクールで文部科学大臣賞　受賞

総務課防災危機管理室　☎㉕1118

第13回小学生のぼうさい探検隊マップコンクール（一般社団法人 日本損害保険協会など主催）において、応募作品2，871点の中から、安楽島子ども会「安楽島キッズ探検隊」の作った防災マップが最高賞の文部科学大臣賞に輝きました。

安楽島キッズ探検隊の活動内容

安楽島子ども会では、安楽島は高齢者が多く、海に面していることから「まちの安全意識」と「地域への関心」を高めることを目的に、平成17年から毎年、防災マップの作成に取り組んでいます。

子どもたち自らが実際に町を歩き、避難路や消防施設、堤防や危険箇所などを確認したり、町の人（消防団、漁師、釣り人、地域の高齢者など）に聞き取りやアンケート調査を行って、気付いたことや感じたことを書き込んでいます。

今回作った防災マップ

安楽島小学校の1～6年生13人が参加し、市から住民に避難を呼びかける防災行政無線が災害時に使えなくなった場合、かつて火事などの際に鳴らしていた半鐘が避難の合図として役立つのではないかと考え、市指定津波避難場所のてんぐ山から鳴らした半鐘の音がどこまで届くか、住民に聞き取りながら調べました。

マップには、半鐘が聞こえた地点や、危険な場所などが分かりやすく示されています。

高さ40㎝、直径28㎝、重さ20kgの半鐘

「安楽島キッズ探検隊」の作った防災マップ

作品の評価

①防災無線が使えなくなった場合に、半鐘の音が避難の合図として有効かどうかを実験・調査しており、テーマが明確で分かりやすい。

②半鐘の音が聞こえた場所と聞こえなかった場所はどこかが強調されている。地図の色を分け、写真の凡例もついているため見やすい内容になっている。

③調査の結果、半鐘は防災無線が使えない際の代替手段として使えることや、看板の活用などの正しい情報伝達システムを学んだことが伝わる内容となっている。

④拡声器のサイレンはどうか、風向が違う日に調査してはどうか、沖にいる漁師にも聞こえるかなど、地域での探検・調査活動が定着しており、まちの人々が子どもたちに期待している様子がうかがえる。

安楽島キッズ探検隊の岩佐美咲くん・喜びの声

私たち探検隊は、防災無線がトラブルで使えなくなった時に消防小屋に眠っている半鐘が避難の合図にならないか実験調査してマップにまとめました。

風向きの関係もあり、思ったほど聴こえなかったのですが、結果として家の中では聴こえず、家の外では聴こえることが分かりました。

てんぐ山に防災倉庫ができると聞いているので、そこに半鐘を置くことを町の人に提案したいと思います。

12年前から続いているぼうさい探検隊をやれることができて良かったし、文部科学大臣賞をもらえてみんなで喜んでいます。

見守り、支える。安楽島地域の大人たち

指導員の一人・浜口敬司さんは「子どもたちが町を歩き、地域のかたがたと話すことで、気が付くことが多く、大人の防災意識も自然と高まる。続けることにより、『町歩きは大事』と実感しています。今後も活動を続けていきたい」と語ってくれました。

子どもたちの行動力で地域を巻き込み、地域全体で防災のまちづくりに取り組む姿勢は、他地域への広がりが期待されます。

2月15日に市長室を訪問し、受賞を報告した子どもたち

自分のいのちは自分でまもろう

安楽島小学校の取り組み

安楽島小学校では、一昨年の校区内で起こった豪雨による土砂崩れをきっかけに、より充実した防災教育を目指しています。

全児童にヘルメットを配布し、大地震・津波を想定した避難訓練、保護者への引き渡し訓練を実施したり、防災マップの作成や学校用持ち出し袋の中身について話し合うなどさまざまな取り組みを行っています。今では、児童全員が持ち出し袋を学校に準備して災害に備えています。

平成28年度には当時の2年生が子育て応援!!0・1・2・3サークルのみなさんと連携して防災力を高める取り組みを行ってきました。今回は、その様子を一部紹介します。

1

2

3

2年生は年間を通じてまちたんけんや持ち出し袋の準備など防災についてさまざまなことを学んできました。2月18日には、学習のまとめとして避難所疑似体験を行いました。教室で地震に関する絵本の読み聞かせを観た後、抜き打ちで流れた緊急地震速報にも子どもたちはすぐに反応し、慣れた動作で机の下に潜り、ヘルメットを着用しました。そして、割れたガラスに見立てた卵の殻や、机いすが散乱している廊下を慎重に通り抜け体育館に避難しました。（写真①）

体育館では、マットやダンボール、コーン、ロープ、新聞紙などでそれぞれが自由に寝床を作った後、0・1・2・3サークルの山本代表の講評を受けました。（写真②）その後、家庭科室へ移動し、自分の持ち出し袋の中に入っている水で作った非常食のおかゆと琴井村というしこ名で力士であった井村さんと保護者が作ったちゃんこ鍋をいただきました。（写真③）子どもたちは、「もっともっと地震のことや津波のことを勉強したいです」などと感想を作文にしました。

避難時すぐに手に取れるよう廊下の壁に掛けてある持ち出し袋

2年生担任の山本先生の感想

1年間を通し、子どもたちが防災に関心を持ち、もっと学びたいと思えるようになったことは大きな成果であると考えています。今後は、子どもを中心に地域・行政・学校の連携をさらに進めた防災体制を築いていければと思っています。